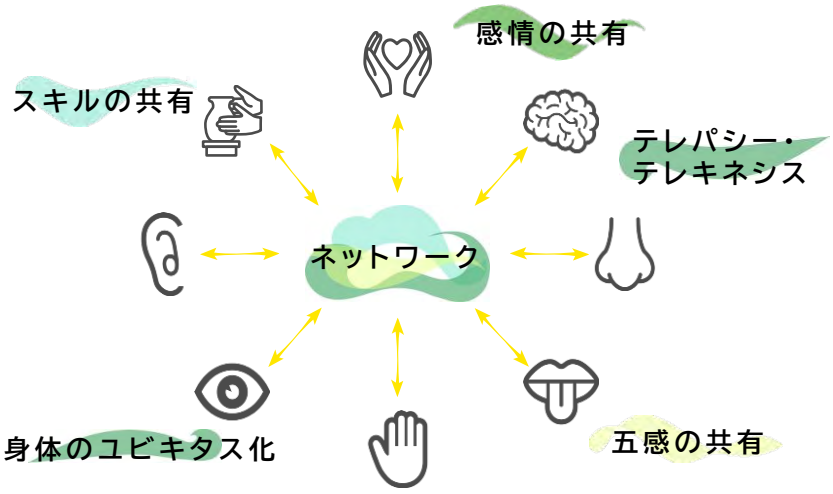
つなごう。驚きを。幸せを。
docomo

FEEL TECH

人間の感覚をネットワークで拡張する「人間拡張基盤®」を用いて 他者の動作や感覚を受け手の身体や感じ方に合わせて変換し共有する取組み



- これまで伝えたくても伝えることができなかった感動や感覚、記憶や体験をつなぐことで、新しいコミュニケーション文化を創造し、真に「わかり合う」世界の実現をめざした取組み
- 6G時代の新たな提供価値の一つとして、2020年代後半に限定的なサービスを開始し、2030年頃の本格的なサービス開始を予定
- さまざまなパートナーと連携し、社会的課題の解決にも貢献することで、一人ひとりが輝き、寄り添いながらあらゆる可能性が広がっていく社会“Wellbeing Society”の実現に貢献

これまでの取組み

動作共有



- 人やロボット同士の大きさや骨格などの身体データを比較し、その差分を考慮して動作を共有
- 無理のない自然な動作の共有や、大きい動作をもとにきめ細やかな動作を再現するなどを実現

取組み紹介

触覚共有



- 受け手の触覚に対する感度特性をふまえて触覚を共有
- 職人しか認識できないような触覚の違いを素人が認識することや、昔に触った感覚をリアルに思い出すこと、ECサイトで洋服などの商品の手触りを感じること、映像中の登場人物の感情や感覚を感じることなどを実現

取組み紹介

味覚共有



- 受け手の味覚に対する感度特性をふまえて味を共有
- メタバース空間のバーチャル体験と連携させたり、映画やアニメにおいて作者が伝えたい味をコンテンツに付加させたりなど、よりリッチなコンテンツ提供を実現

取組み紹介

©2025 NTT DOCOMO, INC. All Rights Reserved.
「FEEL TECH」「人間拡張基盤」は、株式会社NTTドコモの商標です。

contact： feeltech-ml@ml.nttdocomo.com

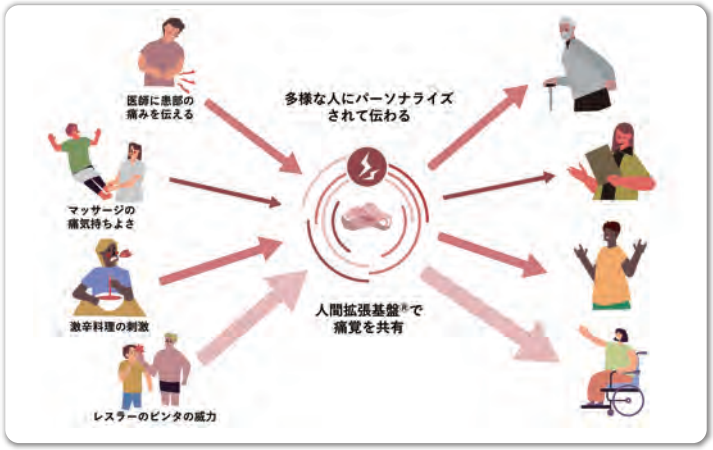
つなごう。驚きを。幸せを。
docomo

FEEL TECH®

“痛み”の共有による相互理解の深化を実現するプラットフォーム

着目した世の中の課題

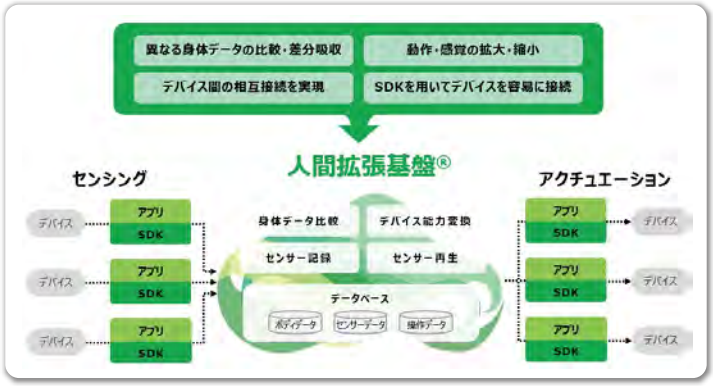
人が伝えたい想いや気持ちは、自覚している顕在意識だけであり、一般的に意識全体の10%程度と言われています。今回は、言語化が難しい要素の一つである“痛み”に着目し、“痛み”を他人と共有することを可能とすることで、人と人がより深くわかり合えるようなコミュニケーションをネットワークでサポートできないかと考えました。



解決となる取組み

概要

痛覚に関するデータを把握するセンシングデバイス、痛覚の感度に対する個人差を推定し共有する「人間拡張基盤®」と、痛覚を再現するアクチュエーションデバイスの3つを基本として構成し実現します。人それぞれの痛覚の感度を推定した上で、受け取り側の感度を踏まえて変換して共有が可能です。本技術によって、「Aさんにとっての“50の痛み”が、Bさんにとってはどの程度に相当するのか」や、「Aさんが平常時と比較して、現在どれほどの痛みを感じているのか」など、相手の痛みを“自分ごと”として体感・理解することができます。



取組みを支える技術

ドコモが開発した「人間拡張基盤®」とPaMeLa株式会社が開発した痛みを脳波から測定する技術を連携し、人それぞれの痛覚の感度を推定することで、相手の感じ方に合わせて痛覚を共有する技術を開発しました。

これからの新しいコミュニケーションとして、
医療における診断サポートや福祉分野でのリハビリ支援、
XR・ゲームなどのエンターテインメント分野でのさらなる没入型体験、
将来的にはカスタマーハラスメントやSNS上での誹謗中傷の対策など、
本技術を通じて、“痛み”が関わるさまざまな価値提供をめざします。

伝えたいことが、きちんと伝わる世界へ